

三重県立子ども心身発達医療センター

たより

2018年1月号

「子ども一人ひとりが、その子らしく豊かな人生を送るために」

センター開設7か月を振り返って

センター長 金井 剛

県立子ども心身発達医療センターが昨年6月に開設されて、早7か月が経ちました。子どもたちの変化への反応、三施設の考え方や文化の違い、電子カルテへの移行、職員数の不足、新しい建物への順応など、開設当初は混乱ばかりでした。職員は連日遅くまで仕事をし、事務職員たちは翌日まで残って仕事をする日々がしばらく続きました。それでも徐々に職員同士の交流も進み、日常の臨床に落ち着きが見られ、少しずつ中期的な視点や子どもたちが過ごしやすい環境作りなどへ、職員も視線をめぐらせる余裕が出てきたところでしょうか。

それに伴って、様々な課題も見えてきています。看護職員の不足から、児童精神科病棟をフルオープンすることができていません。医師数や心理職員数が、初診の需要に追いつかず、昨年7月には早くも年度内の予約がすべて埋まり、初診予約を12月まで閉じざるを得ませんでした。それらの結果、初診待ちの期間は8か月、入院待ちの人数も70人に及んでいます。整形病棟では、夜勤の看護師不足が明らかとなり、短期の入院ケースも多く、病棟の負担の大きさが課題となっています。医師の不足から、一部児童精神科医がその負担をカバーせざるを得ません。職員の不足はデイケアや療育、通所事業などその他の部署でもその業務の圧縮を余儀なくさせています。さらに、三重病院との連携システムの細部の不備、通院のアクセスの問題、精神科病棟の構造的課題、給食の問題等々、課題は山積されています。

一方で、院内整形外科と児童精神科の両科を重複して受診している子どもが150人近くになり、利便性が向上したと言えます。三重病院との合同医局会や相互の院長回診など連携を強める工夫の進行、地域医療機関医師へのオープンカンファレンスの第1回目の開催など、地域医療機関との連携強化が動き出しました。病院



裏の土手に桜や果樹が植樹され、畑やデイキャンプなどに活用できるスペースの開墾が始まるなど、子ども達にとって快適な環境の整備なども進んでいます。職員用図書館も利用可能となり、様々な学会や研修への発表や参加も滞りなく行われ、専門性の維持向上への環境も整ってきました。医療安全や感染対策の体裁も整いつつあります。学校との連携も、合同避難訓練、種々の研修会への相互乗り入れ、日常的な合同カンファの開催など落ち着きつつあります。

今後は、課題の解決に努めることに加えて、県内唯一のセンターとしての機能の集約と強化が求められます。赤字額の削減も意識しなければいけません。何よりも職員が、三重県に生まれた子どもたちにとって、何ができるのか、何をすべきか考え、それを提案し、実現すべく努めなくてはなりません。そのようなビジョンのある職員集団になることを目指していくことが今後求められることとなります。

それでもセンター内だけで可能となることは多くありません。関係機関や地域の皆様の協力の元、というよりも一丸となって、子ども達の幸福に寄与していくことが大切です。これまで以上のご指導・ご協力をお願いいたします。

発行 三重県立子ども心身発達医療センター 広報担当

〒514-0125 三重県津市大里窪田町340番地5

TEL 059-253-2000(代表) FAX 059-253-2031

MAIL: childc@pref.mie.jp URL: <http://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC>

小児整形外科

～ 草の実病棟（小児整形外科病棟）では、平成30年4月より親子入院を開始します ～

親子入院とは、おおむね2歳から就学前の肢体不自由のお子さんとその保護者を対象とし、お子さんと保護者が一緒に入院して、医師・専門スタッフとともにお子さんとの関わり方を学んでいただき、日常生活に活かしていただくことを目的とした入院で、期間は1週間から4週間までとなります。お子さんの発達にあった目標を立て、一人ひとりに応じて理学療法、作業療法、摂食機能療法、日常生活指導（入浴、排泄、更衣など）、栄養指導をおこないます。

詳しくはリハビリ担当・医療連携課担当までご相談ください。



児童精神科

～ センター祭を開催しました ～

昨年10月29日（日）、開院後初めての大きな行事「センター祭」を開催しました。ご家族や関係者の皆さんに見に来ていただくことを楽しみに、子どもたちは9月から2か月もの長い間、あすなろ病棟、かがやき特別支援学校あすなろ分校の両方で準備作業や舞台発表練習を続けてきました。意見が合わずケンカになったり、練習がうまくいかず不安になったり、疲れて練習を拒むこともありましたが、職員、教員の助けや友だちの協力を得ながら、最後までやり遂げることができました。センター祭当日は、台風22号の影響でやむを得ずプログラムを短縮することになりましたが、よさこい踊りや和太鼓演奏、ダンス、劇など子どもたちの発表や作品、模擬店やあそびコーナーなど、全てを皆さんに楽しんでいただくことができました。観客の割れんばかりの拍手にどの子どもの顔も晴れ晴れとしていました。改めて、子どもたち自身が本来もっている「成長する力」を目の当たりにし、職員、教員ともども児童精神科における治療や教育の意義を実感することができました。

はじめての場所でのセンター祭であり、私どもの配慮の行きとどかない点多々あったかとは思いますが、たくさんのご家族や関係者の皆さまにご参加いただき盛り上げていただきましたこと、改めてお礼申し上げます。今回のセンター祭を幕開けとして、この大里の地で末永く当センターの歴史を刻んでいきます。



難聴児支援センター

難聴児支援センターでは、0歳児グループ「つくしんぼ」を月2回月曜日に実施しています。

生まれてすぐに行う新生児聴覚スクリーニング検査によって、難聴の疑いがあるかどうか0歳児の段階からわかるようになりました。きこえが気になる0歳児のお子さまであれば、どなたでも参加できます。

今年度も県内各地から難聴のお子さまと保護者の方が参加してくれています。行ってもいいのかな？と迷われたら、一度ご連絡ください。

